

# 天プラの挑戦 2.

## 地域に密着した天文学普及モデルの模索

高梨直紘、平松正顕（東京大学）、塚田健（東京学芸大学）、tenpla.net

### The TENPLA Project 1.

#### How we can enjoy Astronomy with local peoples?

Naohiro Takanashi, Masa'aki Hiramatsu (The University of Tokyo),

Ken Tsukada (Tokyo Gakugei University), and tenpla.net

#### Abstract

We report activities of enjoying Astronomy with local peoples. TENPLA have held many local events like Science Cafes, Star Parties, Astronomy clubs and so on. In this paper, we introduce you the project “Mitaka Uchu’u Jyuku” which is a class of Astronomy for families, especially for families who have babies.

#### 1. 概要

天プラでは東京都三鷹市を中心に、サイエンスカフェの開催、小学校での天文クラブの運営、乳幼児を持つ親を主対象とした無料託児付き天文教室の開催など、地域密着型の天文学普及活動を開始した。これらの取り組みについて、開催にいたる経緯と背景も合わせ、現状を報告する。

#### 2. 科学を楽しむ文化

近年の「科学コミュニケーション」ブームを背景に、市民が科学を楽しむための活動が盛んに行われているが、そういった活動の受け手である市民が中心となって行われている科学普及活動は多くない。スポーツや芸術のように、市民が自ら科学を求め、楽しむ。このようなライフスタイルがアタリマエになることをめざし、地域に密着した天文学普及活動を通じて、天プラでは広く提案していきたいと考えている。

地域の人々が、自ら科学普及に取り込むことは、次の点で意義があると我々は考えている。

#### 当事者主権

どのように科学を楽しむか、様々な選択肢を市民自身が作り出す機会を持つ

#### 意識の向上

「疑わざれば求めず、求めざれば得ず」与えられるのではなく、自ら得る過程を体験できる

#### 様々な視点

様々な立場の人が関わることで、多くの人に“優しい”科学普及が行える

#### マンパワーの拡大

多くの人に関わることで負担が減り、持続性のある活動が行える

実際、このような点を意識しているか否かは別にして、地域に密着した天文学の普及活動は数多く行われている。例えば、次のような事例を、我々は活動の参考にしている。

- ・天文ボランティア「うちゅうせん」（仙台市）  
仙台市天文台の市民ボランティアを中心に街角観望会を開催
- ・観望会ボランティア「星空キャラバン隊」（千葉市）  
千葉市郷土博物館の市民ボランティアを中心に小学校で観望会を開催
- ・観望会ボランティア「スタスタ」（葛飾区）  
葛飾区郷土と天文の博物館の観望会を主催、最近では出張観望会も

ここに挙げた以外にも、地域に根付いた活動を長年にわたって行っている事例は多い。

### 3. 天プラの場合

天プラでは、まず地域で活動する市民団体との意見交換を行い、以下のようなロードマップを設定した。

#### phase1

天プラが主体となって市民に科学の楽しみ方を提案する

#### phase2

市民が自ら企画を提案し、天プラが協力する

#### phase3

天プラとは関係なく、様々な企画が市民によって主催される

我々は、「市民」として、まず子育て中の親（主に母親）をターゲットとすることに決めた。これは、知的な活動への欲求が強いにもかかわらず、乳幼児を連れた親を主対象とする科学普及の機会は少ないことを踏まえてのことである。また、天プラの提案する天文学の楽しみ方の例として、「小学校における天文クラブ」と「天体望遠鏡を使いこなすことを目的とした天文講座」を行うこととした。以下では、それぞれの取り組みについて簡単に報告する。

### 4. アストロクラブ

三鷹第四小学校の学校教育支援 NPO「夢育支援ネットワーク」と協力し、天文クラブ「アストロクラブ」の運営を開始した。小学校 1 年～6 年生が対象で、月に 1 回のペースで活動を行っている。基本的には教室での活動を行っているが、天プラのネットワークを活かし、杉並区立科学館におけるプラネタリウム見学など、外部リソースも取り入れた活動も行っている。

この事例では、天プラは天文学に関する部分を担当し、夢育支援ネットワークでは学校や保護者との連絡役を担当してもらっている。今後は、より保護者の方を巻き込んだ活動を行っていく予定である。

### 5. みたか宇宙塾

2006 年 7 月から、市民が中心となって天体観察を楽しむために必要な基本的な知識と技術を学ぶための連続講座（全 6 回）、「みたか宇宙塾（第 I 期）」を大沢コミュニティーセンターにて開講した。受講生は 11 家族で、成人女性が 11 名、成人男性が 3 名、子供が 16 名であった。第

I 期に関して工夫した点と、その成果は次の通りである。

- ・参加者層の絞り込み

第 I 期の講座は、地域における重要な“母親”を対象に行った。「NPO 子育てコンビニ」の助言により、無料の託児をデフォルトにして参加者を募ったところ、非常に多くの応募をいただいた（ちなみに、募集にもインターネットの子育て支援系ウェブサイトを利用した）。

- ・無料託児

上にも述べたように、「楽しむ科学コンクール」の賞金を元に、無料の託児室を開設した。平均して 3 名程度の乳幼児が利用した。講座 1 回あたりの運営費は約 1 万円であるが、このような金額であるならば地域企業などの協賛を得ることで捻出が可能であり、今後はこの成果を元に地域企業/行政などへの支援体制の設備をお願いする予定である。

- ・地域観望会の開催

講座の最終授業として、実際の天体観測を伴う望遠鏡の講習を行った。今回の講座は家族単位での参加が多かったため、各家族ごとに行い、講座に参加した方を中心に家族の方とともに天体観測を楽しみながらの講習を行った。

- ・幅広い層のスタッフ参加

講座における運営スタッフは、開講したコミュニティーセンター付近に在住する学生および国立天文台職員をお願いした。

この連続講座は II 期行う予定であり、11 月からは第 II 期の講座を行う予定である。第 II 期では、主にシニア層をターゲットとする予定であり、現在ユニークな募集方法がないかを模索中である。

天プラでは、今後も地域の力を活かした天文学普及活動を模索していく予定である。今後の報告にも期待されたい。